

平成26年度ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会  
議事要旨

1. 日 時：平成27年3月27日（金） 13：30～15：30

2. 場 所：ホテルアジュール竹芝13階飛鳥の間

3. 出席委員：永田委員長、伊規須委員、酒井委員、田中委員、田辺委員、原口委員、  
益永委員、宮田委員、森田委員、若松委員

4. 議 題：＜公開＞

(1)平成26年度における各部会の取組状況について

<主なご意見> 特に無し。

(2)平成26年度における各PCB処理事業の進捗状況について

<主なご意見>

- ・北九州 PCB 処理事業所は一番初めに計画的処理完了期限を迎えるが、それまでに問題点、課題などを調査把握して、改善策などを整理しておくことがその後に処理完了期限を迎える他の処理事業所にとって有効と考える。
- ・血中 PCB 濃度については、上昇傾向の作業員もいるが、少なくとも一部の事業所では、上昇したとしても一般的な日本人の濃度範囲の中に収まっている。こうしたことも整理して資料の説明に加えてほしい。
- ・グローブボックスの素材開発などの努力等についても、記載するとよい。
- ・作業者が事故等により外傷を負うことが非常に少ないとの印象があり、これも JESCO 事業の素晴らしいところと思われるので、そのエビデンスを示すとよい。
- ・豊田 PCB 処理事業所で発生した油圧ユニットの作動油に PCB が混入していた事例では、作動油抜き取り済みの4台についても、廃棄する場合に配慮が必要。  
こうした事例は、今後技術部会において解体撤去の議論を進める中で検討していく。
- ・豊田 PCB 処理事業所以外の事業所の油圧関係機器についても、横並びで調査するとよい。

(3)事業基本計画変更後の取組について

<主なご意見>

- ・別添資料2の情報をさらに整理して今後のメンテナンスに有効に活用してもらいたい。トラブル全体は平成25年度でかなり減少しているが、労災関係は平成23年度、24年度に比べ増加傾向が見受けられるので分析し、現場作業員の意識向上やレベルアップのための対応を検討するとよい。
- ・東京 PCB 処理事業所が水熱設備を中心に事後保全、状態保全から時間保全に切り替える方針を出している。こうした保全概念の変更は、他の PCB 処理事業所では VTR、熔融設備等の機器にもあると思われる。保全概念の変更を行うかどうかの判断をするために、経済性への影響が保全概念の変更でどの程度変わるのか解析してほしい。

#### (4) 大型トランス等に係る現場解体作業について

##### <主なご意見>

- ・ PCB が経皮的にも作業者の体内に入っていく可能性があることをもう少しはっきり記載したほうが良い。  
また狭い空間での作業の場合には酸欠に対する注意も必要である。
- ・ 現場解体作業については、JESCO がもう少し積極的に関与する方向で検討して欲しい。
- ・ 第三次報告書はチェック後、「(案)」を取った形で最終版とする。

##### ■事務局より連絡事項

- ・ 次回の委員会の日時は、永田委員長に相談して決定する。

以 上